

新植・幼木の成長比較検証 (鹿児島県の茶園)

【目的と検証方法】

〈目的〉

- ・新苗・幼木に大和培養液Cを使用し、成長比較検証を実施

〈検証方法〉大和培養液C1000倍希釈水を10aあたり200L散布

新植

試験区：堆肥に大和培養液Cを散布し生産した完熟堆肥を使用

新植前に完熟堆肥を散布し耕運し、セル苗を定植後、大和培養液Cを葉面経由
土壌散布

対照区：通常完熟堆肥を使用

無散布

幼木

試験区：大和培養液Cを葉面経由土壌散布

対照区：無散布

試験区・対照区から各3本選抜し、テープでマーキングして茶木の長さ(初期値)を計測

〈条件〉

検証は同じ圃場で区割りし成長を検証(緩衝区の設定なし)

・新植検証(圃場59番-45a)：試験区(18列) 対照区(その他)

・幼木検証(圃場60番-50a)：試験区(18列) 対照区(その他)

【検証内容】

- ・生長対比効果

【進捗状況① 試験区への散布と茶木の初期計測】

新植圃場: 完熟堆肥の散布



試験区は、堆肥に大和培養液Cを散布し生産した完熟堆肥を使用

試験区に大和培養液を散布



散布日: 2023年3月28日

新植と幼木圃場の試験区に大和培養液C1000倍希釈水を葉面経由土壌散布

圃場59番 新植圃場: 試験区



圃場59番 新植圃場: 対照区



新植の初期値

測定日	区画名	試験区1	試験区2	試験区3	平均値	試験区と対照区の差異
		対照区4	対照区5	対照区6		
3月28日	試験区	10.0 cm	12.5 cm	12.0 cm	11.5 cm	-0.7 cm
	対照区	13.0 cm	11.0 cm	12.5 cm	12.2 cm	0.7 cm

新植は、セル苗
初期計測時の高さの差異は-0.7cm

圃場60番 幼木圃場: 試験区



圃場60番 幼木圃場: 対照区



幼木の初期値

測定日	区画名	試験区1	試験区2	試験区3	平均値	試験区と対照区の差異
		対照区4	対照区5	対照区6		
3月28日	試験区	29.0 cm	25.0 cm	30.0 cm	28.0 cm	1.7 cm
	対照区	26.0 cm	27.0 cm	26.0 cm	26.3 cm	-1.7 cm

苗木は、一般的なもの
初期計測時の長さの差異は1.7cm

【進捗状況②茶木の伸び高計測】

圃場59番 新植圃場:試験区

圃場59番 新植圃場:対照区



測定日	区画名	試験区1	試験区2	試験区3	平均値	初回計測からの伸高	試験区と対照区の差異
		対照区4	対照区5	対照区6			
3月28日	試験区	10.0 cm	12.5 cm	12.0 cm	11.5 cm	0.0 cm	-0.7 cm
	対照区	13.0 cm	11.0 cm	12.5 cm	12.2 cm	0.0 cm	0.7 cm
4月5日	試験区	14.0 cm	16.5 cm	13.0 cm	14.5 cm	3.0 cm	-0.5 cm
	対照区	16.5 cm	15.0 cm	15.5 cm	15.7 cm	3.5 cm	1.2 cm
5月12日	試験区	25.5 cm	29.5 cm	24.0 cm	26.3 cm	14.8 cm	2.3 cm
	対照区	26.0 cm	23.0 cm	25.0 cm	24.7 cm	12.5 cm	-2.3 cm

新植の測定

測定日:2023年5月12日(大和培養液散布から53日目)
 試験区と対照区の高さの差は、**試験区が2.3cm高い**。
 これからの季節、気温上昇で対照区との差が開くことを期待している。

圃場60番 幼木圃場:試験区

圃場60番 幼木圃場:対照区



測定日	区画名	試験区1	試験区2	試験区3	平均値	初回計測からの伸高	試験区と対照区の差異
		対照区4	対照区5	対照区6			
3月28日	試験区	29.0 cm	25.0 cm	30.0 cm	28.0 cm	0.0 cm	1.7 cm
	対照区	26.0 cm	27.0 cm	26.0 cm	26.3 cm	0.0 cm	-1.7 cm
4月5日	試験区	30.0 cm	27.0 cm	31.0 cm	29.3 cm	1.3 cm	-0.3 cm
	対照区	28.0 cm	28.0 cm	28.0 cm	28.0 cm	1.7 cm	0.3 cm
5月12日	試験区	44.0 cm	37.0 cm	45.5 cm	42.2 cm	14.2 cm	1.3 cm
	対照区	42.0 cm	37.0 cm	38.5 cm	39.2 cm	12.8 cm	-1.3 cm

幼木の測定

測定日:2023年5月12日(大和培養液散布から53日目)
 試験区と対照区の高さの差は、**試験区が1.3cm高い**。
 これからの季節、気温上昇で対照区との差が開くことを期待している。